

Title	研究年報執筆要綱
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学独文学研究室
Publication year	2025
Jtitle	研究年報 (Keio-Germanistik Jahresschrift). No.41 (2025. 3) ,p.98- 100
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN1006705X-20250331-0098

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

研究年報執筆要綱

(2019 年度より適用)

(2023 年度改訂)

円滑な編集作業を行い、誤植のない雑誌を刊行するためには、執筆者の皆さまのご協力が必要不可欠です。論文の投稿に際しては、この点をご了承の上、必ず本執筆要綱をお守りください。

雑誌としての表記統一の都合上、編集委員により送り仮名・漢字仮名づかい等の加筆修正をする場合がございます。なお、刊行会への原稿送付の際には、必ず決定稿をご提出ください。初校および再校の修正は執筆者各自が行いますが、三校以降は、誤植訂正以上の加筆は認められません。また、修士課程・博士課程在籍者が投稿を希望する場合、論文の形式および内容について、指導教員の承認を得た上での提出をお願いいたします。

I. 原稿本文について

1) 日本文の場合

- a. 段落の書きだしは、1 字下げる。
- b. 句読点（白ぬきマル「。」、読点（テン）「、」）その他の記号は、全角扱いとする。ただし行頭には句読点を置かず、前行末にはみ出して打つ。この場合、そこで改行するのでないかぎり、次行の冒頭は 1 字下げにしない。
- c. 作品名・論文題名・雑誌名などの表題には原則として『』を、引用文には「」を用いる。引用文中に引用が含まれる場合などには、『』の代用として《》を、「」の代用として〈〉を用いる。
- d. ダッシュ（——）とハイフン（-）の区別、等号（=）と二重ハイフン（=）の区別をそれぞれ明確にする。
- e. 用字・用語は、原則として新漢字・新仮名づかいを用いる。
- f. ドイツ語文によるレジюмеについては、次項 2) を全文、適用する。

2) 欧文の場合

- a. 原稿はあらかじめ、しかるべきネイティヴ・スピーカーに目を通してもらうこと。
- b. 新正書法、旧正書法のどちらでもかまわないが、どちらかに統一すること。
- c. 引用符号は原則として „ “ を用いる。
- d. ダッシュ（—）とハイフン（-）の区別を明確にする。

II. 注について

- 1) 注は Word の脚注機能を使うこと。注が文全体にかかる場合、句読点などの後に注番号を付する。

例：… 1 … 2 …、3 (KS 1, 25)。4

- 2) 注で出典・参考文献などを指示するときには、原則として以下の例にしたがう。

a. 全集・作品集などを指示する場合

例：

① 作品からの直接引用の場合

Kleist, Heinrich von: Sämtliche Werke und Briefe. Bd. 2. Hrsg. von Helmut Sembdner. 6. Aufl. München 1977. に拠る。以下では、本文、括弧内に該当巻数および頁数を示す。

② 作品からの参照箇所を示す場合

Vgl. Wagner, Richard: Dichtungen und Schriften. Jubiläumsausgabe in 10 Bänden. Bd. 5. Hrsg. von Dieter Borchmeyer. Frankfurt a. M. 1983 [以下、JA と略記], S. 176f.

③ 『ゲーテ全集』第 13 巻、蘆津丈夫他訳、潮出版社、1980 年、122-126 頁所収。

b. 文献が単行本の場合

例：

④ エーゴン・フリーデル『近代文化史 2』宮下啓三訳、みすず書房、1987 年、360 頁。

なお、同一文献からの直接引用の指示が複数にわたる場合は以下の例にしたがう。

i. 直前の直接引用の箇所と同書の同上、49 頁。

ii. 二つ以上前の直接引用の箇所と同書の場合フリーデル、前掲書、49 頁。

⑤ 川越修『ベルリン王都の近代』ミネルヴァ書房、1988 年、165-176 頁参照。
なお、同一文献からの参照箇所の指示が複数にわたる場合は以下の例にしたがう。

i. 直前の参照箇所と同書の場合同上、49 頁参照。

ii. 二つ以上前の参照箇所と同書の場合
川越、前掲書、49 頁参照。

⑥ Wolf, Christa: Sommerstück. Berlin u. Weimar 1989, S. 171.

なお、同一文献からの直接引用の指示が複数にわたる場合は以下の例にしたがう。

i. 直前の直接引用の箇所と同書の場合
Ebd., S. 49.

ii. 二つ以上前の参照箇所と同書の場合、丸括弧にて初出の直接引用の箇所を示して、
Wolf (wie Anm. 9), 49.

- ⑦ Vgl. Jolles, André: Einfache Formen. 5. Aufl. Tübingen 1974, S. 217ff.
なお、同一文献からの参照箇所の指示が複数にわたる場合は以下の例にしたがう。

i. 直前の直接引用または参照箇所と同書の場合

Vgl. ebd., S. 122.

- ii. 二つ以上前の直接引用または参照箇所と同書の場合、丸括弧にて初出の参照箇所を示して、

Vgl. Jolles (wie Anm. 5), a. a. O., S. 122.

c. 論文集・雑誌・新聞などに収録されている文献を指示する場合例：

- ⑧ 川中子義勝「ハーマンと旧約聖書—《ゴルゴタとシェブリミニ》」『ドイツ文学』第 87 号、1991 年、12-22 頁。参照箇所は 14 頁。
⑨ 松下亮「ハイネとベルネ—伝記的にみた両者の交渉前史」『独仏文学研究』第 24 号、九州大学独文学研究会、1974 年、69-86 頁。
⑩ Möbus, Frank: Des Plutus zwiefache Rede. Eine kritische Bibelanspielung in Mummenschanz des Faust II. In: Zeitschrift für deutsche Philologie, Bd. 107 (1988) Sonderheft, S. 71-84, hier S. 78f.
⑪ Bode, Ursula: Maler und Dichter der Idylle. In Wolfenbüttel wird Gessners Werk ausgestellt. In: Süddeutsche Zeitung (5. 9. 1980), S. 37.
⑫ Meyer, Reinhart: Das Nationaltheater in Deutschland als höfisches Institut: Versuch einer Begriffs- und Funktionsbestimmung. In: Das Ende des Stegreifspiels. Die Geburt des Nationaltheaters. Hrsg. von Roger Bauer u. Jürgen Wertheimer. München 1983, S. 124-152, besonders S. 149.
⑬ 直接引用および参照箇所の指示が複数にわたる場合は b の例にしたがう。

d. 語学論文の場合

例：

- ⑭ Henne (1986: 137) この場合には論文末に文献リストを付け、次のように記すこと。Helmut Henne (1986): Jugend und ihre Sprache. Berlin/New York (de Gruyter).

e. インターネット上の情報を引用する場合

URL およびアクセス年月日を明記すること。URL の後は全角 1 スペースを空け、全角括弧内に閲覧日を記載する。

例：http://www html. (2018 年 12 月 20 日閲覧)

- f. その他、注の記載方法は、一般に認められている方法に準拠すること。

III. 備考

表記に関する疑問等は、『研究年報』刊行会までお問い合わせください。